



A	所得税の確定申告	十和田税務署またはおいらせ町役場で所得税の確定申告をしてください ※おいらせ町役場で確定申告ができるのは、令和8年2月16日から令和8年3月16日までの期間のみです。
B	町・県民税申告	おいらせ町役場で町・県民税申告をしてください（所得税が多く源泉徴収されていたことで還付を受ける場合は、確定申告が必要です）
C	申告不要	申告の手続きは必要ありません

## 2. 収入が無い方、非課税収入があった方

令和7年中の期間に収入が無い方、遺族年金や障害者年金、雇用保険の失業給付等の非課税収入のみの方も申告が必要です。

申告が無い場合、所得証明書や所得課税(非課税)証明書の発行ができません。（証明書は、保育所等の利用や、町営住宅の入居の際などに必要となります。）また、国民健康保険税や介護保険料等が適正に課税されず、軽減も適用になりません。

なお、収入が無い方や非課税収入のみであった方は、町民税・県民税申告書に代えて、簡易申告書の提出でも構いません。

## 3. 申告期限

令和8年3月16日（月）

## 4. お問い合わせ先、町民税・県民税申告書の提出先

おいらせ町税務課 住民税係

電 話	0178-56-4704（税務課直通）
所在地	〒039-2192 上北郡おいらせ町中下田 135 番地 2

5. 申告書記載例

令和8年度分 県民税・町民税 申告書

おいらせ町長殿		世帯番号	
現住所		宛名番号	
おいらせ町中下田 135-2		指定番号	
1月1日現在の住所		申告区分	
同上		電話番号	090-▲●□○-■▲□○
提出年月日	フリガナ	氏名	個人番号
年 月 日	おいらせ 次郎	奥入瀬 太助	****-****-****
R8 3 1	生年月日	昭和****	世帯主の氏名
		奥入瀬 太助	続柄
			本人
			業種又は職業
			会社員

3 所得から差し引かれる金額に関する事項

13 社会保険料控除	社会保険の種類	支払った保険料	社会保険の種類	支払った保険料
	源泉徴収票より	539,000		
	介護保険料	65,000		
15 生命保険料控除	国民健康保険税	87,000		
	合計			691,000
	新生命保険料の計		旧生命保険料の計	
16 地震保険料控除		89,500		
	新個人年金保険料の計		旧個人年金保険料の計	
		60,000		
17~19 雑損控除	介護医療保険料の計			
		70,000		
	地震保険料の計		旧長期損害保険料の計	
20 障害者控除		25,000		
	⑰ □ 寡婦控除		⑱ □ ひとり親控除	
	⑲ □ 勤労学生控除 (学校名)			
21~22 配偶者特別控除	配偶者	フリガナ	奥入瀬 花子	生年月日
	配偶者	氏名	奥入瀬 花子	昭和****
	配偶者	個人番号	*****	配偶者の合計所得金額
23 扶養控除	扶養親族	フリガナ	奥入瀬 太郎	生年月日
	扶養親族	氏名	奥入瀬 太郎	平成****
	扶養親族	個人番号	*****	同居・別居の区分
24 特定親族特別控除	特定親族	フリガナ	奥入瀬 太郎	生年月日
	特定親族	氏名	奥入瀬 太郎	同居・別居の区分
	特定親族	個人番号	*****	控除額

1 収入金額等	事業	営業等	ア	
		分離肉用牛		
		農業	イ	
		不動産	ウ	600,000
		利子	エ	
		配当	オ	
		給与	カ	(内専給) 3,850,000
		公的年金等	キ	
		雑	業務	ク
			その他	ケ
			短期	コ
			長期	サ
2 所得金額	事業	営業等	①	
		免税所得		
		農業	②	
		不動産	③	230,000
		利子	④	
		配当	⑤	
		給与	⑥	2,638,400
		公的年金等	⑦	
		雑	業務	⑧
			その他	⑨
			合計 (⑦+⑧+⑨)	⑩
		総合譲渡・一時		⑪
	合計		⑫ 2,868,400	
4 所得から差し引かれる金額	社会保険料控除	13	691,000	
	小規模企業共済等掛金控除	14		
	生命保険料控除	15	70,000	
	地震保険料控除	16	12,500	
	寡婦、ひとり親控除	17~19		
	勤労学生障害者控除	20~22	260,000	
	配偶者(特別)控除	23	330,000	
	扶養控除	24	330,000	
	特定親族特別控除	25		
	基礎控除	26	430,000	
	17~25までの計	27	2,123,500	
	雑損控除	28		
医療費控除	29	150,000		
合計 (⑩+⑪+⑫)	29	2,273,500		

1 扶養親族等 (6歳未満)	フリガナ	奥入瀬 次郎	生年月日	令和****	同居・別居の区分	同居	控除額	子
	氏名	奥入瀬 次郎						
	個人番号	*****						
2	フリガナ		生年月日		同居・別居の区分		控除額	
	氏名							
	個人番号							
3	フリガナ		生年月日		同居・別居の区分		控除額	
	氏名							
	個人番号							

扶養親族等	年少扶養	障害者(配偶者含)
特定(内同居)老人 一般 特親		(内同居)特障 普通

27 雑損控除	損害の原因	損害年月日	損害を受けた資産の種類
	損害金額	保険金などで補てんされる金額	差し損失額のうち災害関連支出の金額
28 医療費控除	支払った医療費等	保険金などで補てんされる金額	
	300,000	50,000	

地方税法附則第4条の5の規定の適用を選択する場合には、「医療費控除」欄の「区分」の口に「1」と記入してください。  
 5 給与・公的年金等に係る所得以外(令和8年4月1日において65歳未満の方は給与所得以外)の市町村民税・道府県民税の納税方法  
 給与から差引き (特別徴収)  
 自分で納付 (普通徴収)

「個人番号」欄には、個人番号(行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律第2条第5項に規定する個人番号をいう。)を記載してください。

6 給与所得の内訳

(日給などの給与所得のある人で、源泉徴収票のない人は記入してください。)

月	日	給	勤務日数	月	収
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
賞与等					
合計					
法人番号又は所在地					
勤務先名					
電話番号					

○所得の内訳 (源泉徴収税額) (8 配当所得に関する事項 9 雑所得 (公的年金等以外) に関する事項) を除く

所得の種類	種 目	支払者の「名称」及び「法人番号又は所在地」等	収入金額	源泉徴収税額
給与	給料・賞与	(株) おいらせ	3,850,000	2,600

7 事業・不動産所得に関する事項

所得の種類	支払者の「名称」及び「法人番号又は所在地」等	収入金額	必要経費	専従者控除額	青色申告特別控除額
不動産		600,000	370,000		

8 配当所得に関する事項

配当所得の種類	支払者の「名称」及び「法人番号又は所在地」等	支払確定年月	収入金額	必要経費

9 雑所得 (公的年金等以外) に関する事項

種 目	支払者の「名称」及び「法人番号又は所在地」等	収入金額	必要経費

10 総合譲渡・一時所得の所得金額に関する事項

総合譲渡	短期	収入金額	必要経費	差引金額 (収入金額-必要経費)	特別控除額	所得金額 (差引金額-特別控除額)	
						イ	ロ
	長期						
	一時						ハ

右上のイの金額を表面のロに、ロの金額を表面のイに、ハの金額を表面のシに記入してください。  
右の二の金額を表面のハの所得金額欄へ記入してください。

ニ 合計  $イ + [(ロ+ハ) \times 1/2]$

11 事業専従者に関する事項

フリガナ	氏名	続柄	生年月日	専従者給与(控除)額
1				
2				
3				

所得税における青色申告の承認の有無 承認あり・承認なし 合計額 ( 人 )

13 事業税に関する事項

非課税所得など	番号	所得金額
損益通算の特例適用前の不動産所得		
事業用資産の譲渡損失など	資産の種類	損失額、被災損失額(白)
前年中の開廃業	開始・廃止	

他都道府県の事務所等

12 別居の扶養親族等に関する事項

フリガナ	氏名	生年月日	住所	国外居住	配偶者	30歳未満又は70歳以上	留学者	障害者	38万円以上の支払
1									
2									
3									

14 寄附金に関する事項

都道府県、市区町村分 (特別控除対象)	金額
都道府県	10,000
市区町村	

所得税に関する事項

算出税額	所得税額
住宅借入金等特別控除	申告納税額

15 所得金額調整控除に関する事項

フリガナ	氏名	生年月日	特別障害者に該当する場合	別居の場合の住所

6. 源泉徴収票から申告書への記載例 (5. 申告書記載例の金額に対応)

令和7年分 給与所得の源泉徴収票

支払を受ける者	住所又は居所	おいらせ町中下田 135-2		(受給者番号)			
	氏名	(フリガナ) オイラセ タル	姓	奥入瀬	名	太郎	(役職名)
種別	支払金額	給与所得控除後の金額	所得控除の額の合計額	源泉徴収額			
給与・賞与	3 850 000	2 638 400	2 586 500	2 600			
(源泉)控除対象配偶者の有無	配偶者(特別)の有無	控除対象扶養親族等の数 (配偶者を除く。)		16歳未満扶養親族の数	障害者の数 (本人を除く。)		非居住者である親族の数
控除の額	3 800 000	特定	老人	1	特親	1	1
特定親族特別控除の額	5 390 000	生命保険料の控除額	1 125 000	地震保険料の控除額	2 500 000	住宅借入金等特別控除の額	
生命保険料の金額の内訳	89,500	介護医療保険料の金額	70,000	新個人年金保険料の金額	60,000	基礎控除の金額	
住宅借入金等特別控除の内訳		配偶者の合計所得	650,000	基礎控除の額	880,000	所得金額調整控除額	
1	(フリガナ) オイラセ タル	氏名	奥入瀬 太郎	1	(フリガナ) オイラセ タル	氏名	奥入瀬 次郎
2	(フリガナ) オイラセ タル	氏名	奥入瀬 太郎	2	(フリガナ) オイラセ タル	氏名	奥入瀬 次郎
3	(フリガナ) オイラセ タル	氏名	奥入瀬 太郎	3	(フリガナ) オイラセ タル	氏名	奥入瀬 次郎
4	(フリガナ) オイラセ タル	氏名	奥入瀬 太郎	4	(フリガナ) オイラセ タル	氏名	奥入瀬 次郎
未成年者	外国	死亡退職者	災害者	本人が障害者	その他	ひとり親	勤労学生
中途就・退職	就職	退職	年	月	日	受給者生年月日	
昭和	*	*	*				
支払者	住所(居所)又は所在地	おいらせ町上明堂 60-6		氏名又は名称	(株) おいらせ		
				(電話)	0178-56-2111		

1 収入金額等「カ」と裏面の所得の内訳に記入

2 所得金額⑥に記入

裏面の所得の内訳に記入

3 所得から差し引かれる金額に関する事項③に記入

各保険料の支払額を、3 所得から差し引かれる金額に関する事項⑤に記入し計算する。計算した控除額を 4 所得から差し引かれる金額⑬に記入する。

地震保険料支払額を 3 所得から差し引かれる金額に関する事項⑥に記入し、計算した控除額を 4 所得から差し引かれる金額⑭に記入する。

扶養親族の障害者を 3 所得から差し引かれる金額に関する事項⑯に記入し、控除額を 4 所得から差し引かれる金額⑰⑱に記入する。

3 所得から差し引かれる金額に関する事項の⑲⑳に記入する。配偶者の合計所得から配偶者控除・配偶者特別控除を判断・計算し、控除額を 4 所得から差し引かれる金額㉑㉒に記入する。

3 所得から差し引かれる金額に関する事項㉓㉔に記入し、控除額を計算のうえ、4 所得から差し引かれる金額㉓㉔に記入する。

16 歳未満扶養親族を 3 所得から差し引かれる金額に関する事項の「16 歳未満の扶養親族(控除対象外)」に記入する。

該当する本人控除を、3 所得から差し引かれる金額に関する事項㉕㉖㉗㉘に記入し、控除額を 4 所得から差し引かれる金額㉕㉖㉗㉘に記入する。

※「所得控除の額の合計額」、「配偶者(特別)控除の額」、「生命保険料の控除額」、「地震保険料の控除額」、「基礎控除の額」の金額は、所得税の控除額になっていますので、町民税・県民税の控除額で計算し申告書に記載してください。

## 7. 申告書の書き方（分離課税を除く）

### （1）住所・氏名・電話番号・個人番号など

住所	「現住所」欄に現在の住所を記入してください。「1月1日現在の住所」欄には、令和8年1月1日の住所が「現住所」と異なる場合に記入してください。なお、方書やアパート名などについても具体的に記入してください。
氏名	氏名、フリガナを記入してください。（押印不要です）
電話番号	不明な点がある場合、電話連絡で確認することもありますので、日中連絡がつく携帯電話番号などを記入してください。
個人番号	個人番号を記入してください。
生年月日	生年月日を記入してください。
世帯主の氏名	令和8年1月1日の世帯主を記入し、世帯主との続柄を記入してください。

### （2）1 収入金額等 / 2 所得金額

収入の種類ごとに収入金額及び所得金額を計算して、該当する欄に金額を記入してください。表内のカタカナ記号及び丸数字は申告書に対応しています。

収入金額	事業（農業、漁業、自営業等）や不動産などの場合は、経費を差し引く前の「売上金額」等です。会社等から給与を受けている場合は、社会保険料等が天引きされる前の「(給与) 支払金額」、公的年金の場合も、社会保険料等が天引きされる前の「(年金) 支払金額」を、それぞれ収入金額といいます。
所得金額	収入金額から、その収入を得るための必要経費または法令で定められている控除額を差し引いた金額をいいます。

所得の種類		所得の概要	計算方法及び記入方法
ア/①	事業 業	営業等 製造業、卸売業、小売業、飲食店業、サービス業のほか、漁業、外交員、医師、弁護士などの営業（事業）から生ずる所得	<b>所得金額</b> =収入金額－必要経費 ※所得の種類ごとに収支内訳書を作成し、収入と所得を記入してください。また、「7事業・不動産所得に関する事項」に収入金額や必要経費等を記入してください。
イ/②		農業 農作物の生産、果樹などの栽培、家畜の飼育などから生ずる所得	
ウ/③	不動産 地代、家賃、土地家屋の権利金などの所得		
エ/④	利子	預貯金や公社債の利子、公社債投資信託などの収益の分配による所得（*1）	所得金額＝収入金額
オ/⑤	配当	法人から受ける利益の配当、剰余金の分配、投資信託などの収益の分配による所得（*2）	<b>所得金額＝収入金額－株式などの元本取得のために要した負債の利子</b> ※「8配当所得に関する事項」に内容を記入してください。

所得の種類		所得の概要	計算方法及び記入方法
カ/⑥	給与	給与、賃金及び賞与などの所得  ※パートやアルバイトによる収入を含みます。 ※謝礼や報酬などでも給与所得に分類される場合があるため、不明な場合は支払者に確認してください。	<p>《源泉徴収票から記載する場合》 収入金額は「支払金額」、所得金額は「給与所得控除後の金額」を転記してください。（*3）</p> <p>《給与所得を計算する場合》 8 ページの速算表で計算してください。</p> <p>※給与の内訳を「6 給与所得の内訳」または「所得の内訳」に記入してください。</p>
キ/⑦	雑 （*6）	公的年金等  国民年金、厚生年金、企業年金及び公務員の共済年金などの所得（*4）	公的年金等の計算は9 ページの速算表で計算してください。（*3） ※「所得の内訳」に記入してください。
ク/⑧		業務  副業などによる収入のうち営利を目的とした継続的なもの（*5） ※シルバー人材センターからの分配金、原稿料や印税、その他副業など。	所得金額 ＝収入金額－必要経費
ケ/⑨		その他  他の所得に当てはまらないもの ※金銭の貸付による利息、生命保険の年金など	所得金額 ＝収入金額－必要経費
コ/⑩	総合譲渡	短期  土地建物等以外の取得から5年以内の資産の譲渡による所得 ※資産とは、船舶や機械等の動産、借地権や営業権、特許権や著作権などです。	<p>「10 総合譲渡・一時所得の所得金額に関する事項」に記入し計算してください。</p> <p>「裏面イ」の金額→申告書「コ」 「裏面ロ」の金額→申告書「サ」 「裏面ハ」の金額→申告書「シ」 「裏面ニ」の金額→申告書「⑩」</p> <p>※特別控除額は総合譲渡50万円、一時所得50万円（50万円に満たない場合は当該額。長期・短期譲渡がある場合は短期譲渡から差し引く。）</p>
サ/⑪		長期  土地建物等以外の取得から5年を経過した資産の譲渡による所得 ※資産とは、船舶や機械等の動産、借地権や営業権、特許権や著作権などです。	
シ/⑪	一時	生命保険や損害保険の満期返戻金、懸賞の賞金・当選金額、競馬や競輪の払戻金などの一時的な所得	
⑫	合計	①から⑥、⑩、⑪の合計を記入する。	

- \* 1 銀行等の預金の利子など、支払時において住民税が徴収されたものについては申告の必要はありませんが、国外の銀行等の預金の利子など、源泉徴収されないものは申告が必要です。
- \* 2 非上場株式の少額配当等がある場合は、所得税とは異なり申告不要制度はありませんので、申告が必要です。
- \* 3 給与収入が 850 万円超で一定の要件を満たす方、または給与所得と公的年金等の雑所得の両方がある者は、所得金額調整控除の対象になります。詳細は下記とおりです。
- \* 4 障害年金や遺族年金は非課税ですので申告の必要はありません。また、雇用保険の給付金なども非課税となります。
- \* 5 給与所得者が太陽光発電設備を家事用資産として使用し、その余剰電力を売却している場合などは、事業所得に該当しない副業と判断され、雑所得となります。
- \* 6 雑所得については、赤字の場合は、雑所得内のみで損益通算します。

《所得金額調整控除の計算方法》

①給与収入が 850 万円超で、一定の要件を満たす方の所得金額調整控除

給与収入が 850 万円超で、「23 歳未満の扶養親族を有する場合」または「本人、同一生計配偶者もしくは扶養親族のいずれかが特別障害者である場合」は、次のとおり計算した控除額を給与所得の金額から控除する。

$$\text{控除額} = (\text{給与収入} - 850 \text{ 万円}) \times 10\%$$

※給与収入は上限 1 千万円。控除額は上限 15 万円で計算します。

②給与所得と公的年金等の雑所得の両方がある方の所得金額調整控除

給与所得と公的年金等の雑所得の両方がある方は、次のとおり計算した控除額を給与所得から控除する。

$$\text{給与所得 (上限 10 万円)} + \text{公的年金等所得 (上限 10 万円)} - 10 \text{ 万円}$$

《カ/⑥ 給与所得速算表》

収入金額 (A)	給与所得金額	
～ 650,999 円	0 円	
651,000 円 ～ 1,899,999 円	A-650,000 円	
1,900,000 円 ～ 3,599,999 円	A ÷ 4 = B (千円未満の端数切捨て)	B × 2.8 - 80,000 円
3,600,000 円 ～ 6,599,999 円		B × 3.2 - 440,000 円
6,600,000 円 ～ 8,499,999 円	A × 0.9 - 1,100,000 円	
8,500,000 円 ～	A - 1,950,000 円	

《キ/⑦ 公的年金等雑所得速算表》 ※計算結果がマイナスの場合、所得は0円

年齢	公的年金等 収入金額 (A)	公的年金等雑所得以外の所得に係る合計所得金額		
		1,000万円以下	1,000万円超～ 2,000万円以下	2,000万円超
65 歳 未 満	0円～ 1,299,999円	A - 600,000円	A - 500,000円	A - 400,000円
	1,300,000円～ 4,099,999円	A × 0.75 - 275,000円	A × 0.75 - 175,000円	A × 0.75 - 75,000円
	4,100,000円～ 7,699,999円	A × 0.85 - 685,000円	A × 0.85 - 585,000円	A × 0.85 - 485,000円
	7,700,000円～ 9,999,999円	A × 0.95 - 1,455,000円	A × 0.95 - 1,355,000円	A × 0.95 - 1,255,000円
	10,000,000円 ～	A - 1,955,000円	A - 1,855,000円	A - 1,755,000円
65 歳 以 上	0円～ 3,299,999円	A - 1,100,000円	A - 1,000,000円	A - 900,000円
	3,300,000円～ 4,099,999円	A × 0.75 - 275,000円	A × 0.75 - 175,000円	A × 0.75 - 75,000円
	4,100,000円～ 7,699,999円	A × 0.85 - 685,000円	A × 0.85 - 585,000円	A × 0.85 - 485,000円
	7,700,000円～ 9,999,999円	A × 0.95 - 1,455,000円	A × 0.95 - 1,355,000円	A × 0.95 - 1,255,000円
	10,000,000円 ～	A - 1,955,000円	A - 1,855,000円	A - 1,755,000円

**注意!** 国や地方公共団体などからの給付金・助成金などの取扱い

国や地方公共団体などから支払われる給付金や助成金については、それぞれの給付金・助成金の目的・性質によって、次のとおり課税関係が異なりますので、ご注意ください。

非課税となるもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>●支給の根拠となる法令などの規定で非課税所得とされている給付金など</li> <li>●学資として支給される金品としての給付金・助成金</li> <li>●心身または資産に加えられた損害に対する相当の見舞金</li> </ul>
課税となるもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>●非課税となるものに該当しない給付金・助成金全般</li> <li>→事業に関連して支給されるものは「事業所得」として申告します。</li> <li>→事業に関連しない給付金・助成金で、臨時的に一定の所得水準以下の方に対して支給されるものは、「一時所得」として申告します。</li> <li>→事業所得にも一時所得にも該当しない給付金・助成金は「雑所得」として申告します。</li> </ul>

※課税関係の詳細については、補助金・助成金の支払者や税務署、町税務課へお問い合わせください。

(3) 3 所得から差し引かれる金額に関する事項 / 4 所得から差し引かれる金額

「3 所得から差し引かれる金額に関する事項」を記入のうえ、控除額を計算し、「4 所得から差し引かれる金額」に記入してください。表内の丸数字は、申告書に対応しています。

所得控除の種類	控除の条件 および 記入方法	控除額
⑬ 社会保険料控除	令和7年中に、納税者が自己または生計を一にする配偶者その他の親族が負担すべき社会保険料（健康保険の保険料、国民健康保険税、介護保険料、国民年金保険料など）を支払った場合、または納税者の給与や年金から差し引かれた場合（*1）	支払った金額
⑭小規模企業 共済等掛金控除	令和7年中に、小規模企業共済法に規定された共済契約に基づく掛金等を支払った場合	支払った金額
⑮ 生命保険料控除	令和7年中に、納税者が生命保険料、介護医療保険料および個人年金保険料を支払った場合	13 ページ 参照 (最高7万円)
⑯ 地震保険料控除	令和7年中に、特定の損害保険契約等に係る地震等損害部分の保険料または掛金を支払った場合、または平成18年12月31日までに契約締結した長期損害保険契約等の保険料を支払った場合	14 ページ 参照 (最高 2万5千円)
⑰寡婦控除	●夫と離別後に婚姻していない方で、子以外の扶養親族を有する合計所得金額が500万円以下の方 ●夫と死別した後に婚姻していない、または夫が生死不明で、合計所得金額が500万円以下の方	26万円
⑱ひとり親控除	納税者がひとり親（離婚、死別、生死不明、未婚）で、総所得金額等が58万円以下の生計を一にする子がおり（他の者の同一生計配偶者または扶養親族とされていない者）、合計所得金額が500万円以下の方	30万円
⑲勤労学生控除	令和7年中の合計所得金額が85万円以下で、勤労に基づく所得以外の所得が10万円以下の勤労学生	26万円
⑳障害者控除	納税者や同一生計配偶者、扶養親族が障害者の場合、氏名、マイナンバー、障害区分を記入してください。	
	「障害者」…身体障害者手帳3～6級、精神障害者手帳2～3級、愛護手帳B所持者、または要介護認定者で市区町村から普通障害の障害者控除対象者認定書が交付された方（障害区分は「普通」と記入）	26万円

所得控除の種類	控除の条件 および 記入方法	控除額
⑳障害者控除	「特別障害者」…身体障害者手帳1～2級、精神障害者手帳1級、愛護手帳A所持者、または要介護認定者で市区町村から特別障害の障害者控除対象者認定書が交付された方（障害区分は「特別」と記入）	30万円
	「同居特別障害者」…特別障害者である同一生計配偶者または扶養親族のうち、納税者自身、配偶者、その納税者と生計を一にするその他の親族のいずれかとの同居をしている方	53万円
㉑㉒ 配偶者控除 配偶者特別控除 同一生計配偶者 （＊2）	次のア、イのいずれかに該当する場合、配偶者の氏名、マイナンバー、生年月日、控除額を記入してください ア 同一生計配偶者がいる方 イ 自己の令和7年中の合計所得金額が1千万円以下で、生計を一にする配偶者（事業専従者を除く）の令和7年中の合計所得金額が58万円超133万円以下の方	
	上記アに該当する方のうち、自己の合計所得金額が1千万円超の方 ※控除はありませんが、町民税・県民税の非課税判定に用いるため、同一生計配偶者欄の□にチェックしてください。	控除なし
	上記アに該当する方のうち、自己の合計所得金額が1千万円以下の方（配偶者控除を受ける方）	14 ページ 参照
	上記イに該当する方（配偶者特別控除を受ける方）は、配偶者の合計所得金額を記入してください	
㉓扶養控除	控除対象扶養親族（＊3）がいる場合、該当する方の氏名、マイナンバー、生年月日、同居・別居の区分（＊4）、続柄、控除額を記入	
	一般…16歳～18歳の方（H19.1.2～H22.1.1生） および23歳～69歳の方（S31.1.2～H15.1.1生）	33万円
	特定…19歳～22歳の方（H15.1.2～H19.1.1生） ※合計所得金額が58万円超の場合は㉔参照	45万円
	老人…70歳以上の方（S31.1.1以前生）	38万円
	同居老親等…老人扶養親族のうち、納税者またはその配偶者の直系の尊属（父母・祖父母など）で、納税者またはその配偶者と普段同居している方	45万円
	16歳未満の方（H22.1.2以降生）…控除はありませんが、町民税・県民税の非課税判定に用いるため、16歳未満の扶養親族（控除対象外）の欄に、氏名、マイナンバー、生年月日等を記入してください（＊4）	控除なし

所得控除の種類	控除の条件 および 記入方法	控除額	
②④ 特定親族特別控除	19歳～22歳(H15.1.2～H19.1.1生)の控除対象扶養親族に該当しない親族等で、令和7年中の合計所得金額が、58万円超123万円以下の場合(*5)、氏名、生年月日、控除額等を記入のうえ、「特親」欄に○を記入してください(*4)	15ページ参照	
②⑤基礎控除	自己の合計所得金額に応じて右のとおり の控除額となります	2,400万円以下 2,400万円超2,450万円以下 2,450万円超2,500万円以下 2,500万円超	43万円 29万円 15万円 0円
	②⑥ ⑬～②⑤までの計	上記⑬から②⑤までの合計額を記入してください	
	②⑦雑損控除	自己または生計を一にする令和7年中の総所得金額が58万円以下の配偶者その他の親族が、令和7年中に災害や盗難などにより住宅や家財などの資産に損害を受けた場合、または令和7年中に、災害に関連してやむを得ない支出をした場合	15ページ参照
	②⑧医療費控除	自己または生計を一にする配偶者その他の親族のために、令和7年中に医療費等を支払った場合 ※「医療費控除の明細書」を作成してください	15ページ参照
②⑨合計 (②⑥+②⑦+②⑧)	上記②⑥②⑦②⑧の合計額を記入してください		

- \* 1 生計を一にする配偶者やその他の親族が受け取った給与や公的年金等から天引き(特別徴収)された社会保険料は、本人以外の社会保険料控除にはできません。  
(例：妻の年金から特別徴収された介護保険料は、夫の社会保険料控除にはできない。)
- \* 2 「同一生計配偶者」とは、生計を一にする配偶者(他の納税者の扶養親族とされている方や事業専従者を除く)のうち、令和7年中の合計所得金額が58万円以下の方です。また、自己の令和7年中の合計所得金額が1千万円以下である場合の同一生計配偶者は「控除対象配偶者」といいます。
- \* 3 扶養親族とは、生計を一にする親族等(配偶者、事業専従者を除く)で、令和7年中の合計所得金額が58万円以下の方です。また、扶養親族のうち年齢16歳以上の方(平成22年1月1日以前生)の方は「控除対象扶養親族」といいます。
- \* 4 別居の扶養親族がいる場合は、「12 別居の扶養親族等に関する事項」に記入してください。
- \* 5 納税者と生計を一にする年齢19歳以上23歳未満の親族等で、合計所得金額が58万円超123万円以下の控除対象扶養親族に該当しない者を「特定親族」といいます。

《⑤生命保険料控除の計算方法》

申告書の「3 所得から差し引かれる金額に関する事項」の⑤に、令和7年中に支払った保険料の金額を記入してください。また、保険契約の区分に応じ、下表により控除額を計算のうえ、「4 所得から差し引かれる金額」の⑤に、「O (オ)」の金額を記入してください。

①旧契約（平成23年12月31日までに締結した保険契約等）

一般の生命保険料			個人年金保険料		
A	支払った保険料	A 円	B	支払った保険料	B 円
C	Aの金額	控除額	D	Aの金額	控除額
	~15,000円	Aの金額		~15,000円	Bの金額
	15,001円~40,000円	A×0.5 +7,500円		15,001円~40,000円	B×0.5 +7,500円
	40,001円~70,000円	A×0.25 +17,500円		40,001円~70,000円	B×0.25 +17,500円
	70,001円~	35,000円		70,001円~	35,000円

②新契約（平成24年1月1日以降に締結した保険契約等）

一般の生命保険料			個人年金保険料			介護医療保険料		
E	支払った保険料	E 円	F	支払った保険料	F 円	G	支払った保険料	G 円
H	Eの金額	控除額	I	Fの金額	控除額	J	Gの金額	控除額
	~12,000円	Eの金額		~12,000円	Fの金額		~12,000円	Gの金額
	12,001円~32,000円	E×0.5 +6,000円		12,001円~32,000円	F×0.5 +6,000円		12,001円~32,000円	G×0.5 +6,000円
	32,001円~56,000円	E×0.25 +14,000円		32,001円~56,000円	F×0.25 +14,000円		32,001円~56,000円	G×0.25 +14,000円
	56,001円~	28,000円		56,001円~	28,000円		56,001円~	28,000円
K	C+H	K 円 (上限28,000円)	M	D+I	M 円 (上限28,000円)			
L	CとKのいずれか大きい金額	L 円	N	DとMのいずれか大きい金額	N 円	O	J+L+N (上限7万円)	

《⑩地震保険料控除の計算方法》

申告書の「3所得から差し引かれる金額に関する事項」の⑩に令和7年中に支払った保険料の金額を記入してください。また、保険契約の区分に応じ、下表により控除額を計算のうえ、「4所得から差し引かれる金額」の⑩に「E」の金額を記入してください。

地震保険料			旧長期損害保険料			※一つの契約に地震保険料と旧長期損害保険料の両方がある場合は、いずれか一方でしか控除できません。
A	支払った保険料	A 円	B	支払った保険料	B 円	
C	Aの金額	控除額	D	Aの金額	控除額	
	50,000円以下	$A \times 0.5$		5,000円以下	Bの金額	
	50,000円超	25,000円		5,001円～15,000円	$B \times 0.5 + 2,500$ 円	
			15,001円～	10,000円	E	C + D (上限 25,000円)

《②②配偶者控除・配偶者特別控除》

令和7年中の合計所得金額と配偶者の合計所得金額を下の表にあてはめ、該当する控除額を「4所得から差し引かれる金額」②②に記入してください。

		自己の合計所得金額		
		900万円以下	900万円超 950万円以下	950万円超 1,000万円以下
配偶者控除	58万円以下	33万円	22万円	11万円
	老人(70歳以上) (S31.1.1以前生)	38万円	26万円	13万円
配偶者特別控除	58万円超 100万円以下	33万円	22万円	11万円
	100万円超 105万円以下	31万円	21万円	11万円
	105万円超 110万円以下	26万円	18万円	9万円
	110万円超 115万円以下	21万円	14万円	7万円
	115万円超 120万円以下	16万円	11万円	6万円
	120万円超 125万円以下	11万円	8万円	4万円
	125万円超 130万円以下	6万円	4万円	2万円
	130万円超 133万円以下	3万円	2万円	1万円
133万円超		適用なし		

※自己の合計所得金額が1,000万円を超える場合は、配偶者控除及び配偶者特別控除の適用は受けられません。

《⑳特定親族特別控除》

令和7年中の特定親族の合計所得金額を下の表にあてはめ、該当する控除額を「4所得から差し引かれる金額」の㉑に記入してください。

特定親族の合計所得金額		控除額
58万円超	95万円以下	45万円
95万円超	100万円以下	41万円
100万円超	105万円以下	31万円
105万円超	110万円以下	21万円
110万円超	115万円以下	11万円
115万円超	120万円以下	6万円
120万円超	123万円以下	3万円
123万円超		適用なし

《㉒雑損控除の計算方法》

申告書の「3所得から差し引かれる金額に関する事項」の㉒に損害の原因や年月日、損害金額（下表のA）、保険金などで補填される金額（下表のB）、差引損失額のうち災害関連支出の金額（下表のG）を記入し、「4所得から差し引かれる金額」の㉒に控除額である「I」を記入してください。

損害金額	A 円	C - E	F 円
保険金などで補填される金額	B 円	Cのうち災害関連支出の金額	G 円
A - B（差引損失額）	C 円	G - 50,000 円	H 円
申告書㉑の金額	D 円	FとHのいずれか多い方の金額	雑損控除額
D × 0.1	E 円		I 円

《㉓医療費控除の計算方法》

申告書の「3所得から差し引かれる金額に関する事項」の㉓に支払った医療費等と保険金などで補てんされる金額を記入し、「4所得から差し引かれる金額」の㉓に下の表の計算式による控除額を記入してください。

総所得金額	控除額
200万円未満の方	医療費控除額 = 支払った医療費等の金額 - 保険金などで補填される金額 - 総所得金額等の金額の5%
200万円以上の方	医療費控除額 = 支払った医療費等の金額 - 保険金などで補填される金額 - 10万円

(4) 5 給与・公的年金等に係る所得以外（令和8年4月1日において65歳未満の方は給与所得以外）の市町村民税・道府県民税の納税方法

給与や公的年金等に関する所得のほかにも所得がある場合、給与や公的年金等に関する所得以外の所得に対する町民税・県民税の納税方法について、給与から差し引く（特別徴収）か、自分で納付する（普通徴収）かを選択できます。希望する方法の□欄にチェックしてください。

(5) 6 給与所得の内訳～10 総合譲渡・一時所得の所得金額に関する事項

申告書裏面6～10については、この手引きの6～9ページ記載の各所得の説明をご覧ください。

(6) 11 事業専従者に関する事項

生計を一にする配偶者やその他の親族のうち、自己の事業に専ら従事した方がいる場合、その方の氏名、続柄、専従者給与（控除）額、個人番号などを記入してください。なお、白色申告の場合は、その事業専従者1人につき、次のアかイのいずれか少ない方の金額となります。

ア 86万円（配偶者以外の場合は50万円）

イ 事業専従者控除額を差し引く前の所得金額÷（事業専従者の数+1）

※事業の収支内訳書の事業専従者に関する欄にも、漏れなく記入してください。

(7) 12 別居の扶養親族等に関する事項

11～12ページ「㉓扶養控除」に関する\*4の説明をご覧ください。

(8) 13 事業税に関する事項

事業を営んでいる方で、該当する項目がある場合に必要事項を記入してください。事業税に関する詳細は、青森県上北県税事務所へお問い合わせください。

(9) 14 寄附金に関する事項

令和7年中に次のア～ウの団体に対して支払った寄附金の合計が2千円を超える場合に記入してください。

ア 総務大臣から指定を受けている都道府県、市町村または特別区（ふるさと納税）

イ 令和8年1月1日現在の住所地の共同募金会または日本赤十字社支部

ウ 青森県またはおいらせ町が条例で定めるもの

※上記アについては、「ふるさと納税ワンストップ特例制度」の申請を行った場合、所得税の確定申告または町民税・県民税申告をすることにより適用されなくなりますので、寄附金を含めて申告してください。

(10) 15 所得金額調整控除に関する事項

所得金額調整控除の適用要件に該当する場合は、対象扶養親族等を記入のうえ、所得金額調整控除適用後の給与所得金額を「2所得金額」の⑥に記入してください。

## 8. 申告に関する提出書類

必要書類など	具体例	備考
①町民税・ 県民税申告書		※来庁して申告する場合は不要。 (税務課で作成します)
②令和7年中の 収入が分かる書類	<ul style="list-style-type: none"> <li>●給与・年金の源泉徴収票</li> <li>●事業・不動産の収支内訳書</li> <li>●報酬等の支払調書</li> <li>●その他収入が分かる書類</li> </ul>	<p>※申告時に原本を提示してください。</p> <p>※郵送提出の場合は写しを添付してください。</p>
③控除が 分かる書類	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会保険料の領収書・控除証明書</li> <li>●小規模企業共済等掛金の支払証明書</li> <li>●生命(地震)保険料の保険料払込証明書</li> <li>●障害者手帳または障害者控除対象者認定書(障害者控除に必要)</li> <li>●学生証または在学証明書(勤労学生控除に必要)</li> <li>●雑損控除に関する災害の損失や補填金額が分かる書類</li> <li>●医療費控除の明細書(医療費控除)</li> <li>●寄附金受領証明書(寄付金控除)</li> </ul>	<p>※各種証明書や手帳などは申告時に原本を提示してください。</p> <p>※郵送提出の場合は写しを添付してください。</p> <p>※医療費控除明細書や寄附金受領書は原本を添付してください。</p> <p>※医療費控除の申告の際、医療費通知から転記した場合は、医療費通知の原本を添付してください。</p> <p>※源泉徴収票に記載されている控除については、証明書等は必要ありません。</p> <p>※国外居住親族の扶養控除などの適用を受ける場合は、その親族の「親族関係書類(戸籍附票や外国政府が発行した書類など)」と「送金関係書類(金融機関の書類クレジットカード発行会社の書類など)」の添付が必要です。</p>
④本人確認書類	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マイナンバーカード</li> </ul>	<p>※マイナンバーカードを持っていない場合、「身元確認書類」と「番号確認書類」の両方が必要です。</p> <p>※身元確認書類とは、運転免許証、保険証またはパスポートなど。</p> <p>※番号確認書類とは、番号通知カードまたは番号記載の住民票など。</p>